

競馬がますます
楽しくなる

続 ファンにやさしい

馬学講座

第44回

馬におけるオスとメスの違いとは①

講師

楠瀬良さん

公益社団法人
日本養育協会の
常務理事



案内人：辻谷秋人
text by Akihiro Tsujiya

哺乳類のオスは
強くなければならない!?

今回のテーマは馬の性差、つまり牡馬と牝馬の違いを、主に牝馬の視点で考えてみることにしたい。お話しただくのは、日本養育協会の馬博士・楠瀬良さんだ。私たちは男女間に体格差、体力差が存在することを、ごく自然なこととして理解している。オスの方がメスより大きくて体力もある、という認識だ。しかしそれは当たり前なことではない、というところ

レース出走時の平均馬体重

(2014年JRA)

	平均体重	延べ頭数
全体	470.7 ^{kg}	50,302頭
牡・騾馬	480.6 ^{kg}	31,221頭
牝馬	454.6 ^{kg}	19,081頭

2014年にJRAのレースに出走した馬の平均体重で比べてみると、牡・騾馬と牝馬では約26^{kg}の差があった

から、今回の話を始めよう。

「哺乳類ではオスの方がメスより体格が大きいのが普通ですが、昆虫などではメスの方が大きいものも少なくありません。たくさん卵を産むために体が大きい必要があるからです。一方、多くの哺乳類では、オスたちはメスをめぐって戦います。戦いでは強いオスが有利なのは言うまでもありません。また子育てにオスが参加する哺乳類では、妊娠・子育て中にオスは母子を外敵から守ります。この場合も強いオスは有利と言えます。つまり強いオスは子孫を多く残す確率が高いのです。子どもは父親と遺伝的に似ているので体が大きくなることが多い、ということでもオスが大きくなるわけです」(楠瀬さん)

とくに一夫多妻制の、ハレムを形成するような動物では、メスをめぐる熾烈な争いに勝ったオスが子孫を残すので、オスの体はずっと大きくなる。ハレムで占有するメスの数が多い種ほど、オスが大きい傾向があるのだ。例えば同じアザラシ科の動物であっても、ゴマフアザラシは一夫一婦制で雌雄の体格差はほとんど

ないが、大きなハレムを作るゾウアザラシはオスがメスの4倍ほどの大きさになるのだそうだ。そして馬はというと、ハレム型の動物なのである。

馬の走能力にはオスとメスで差はあるのか

「アメリカのロッキー山脈にいる野生馬ムスタングは、スペインから持ち込まれた馬が再野生化したものですが、彼らはオス1頭とメス4〜5頭のハレムを作り出す。ただ、ほかのハレムを作る動物と比べると、雌雄の体格差は大きくありません。そして同時に走る能力についても、その差はさほど大きくありません」

その理由は、馬という動物が被捕食動物だということにある。馬が走るの自分をおさおうとする肉食動物から逃げるときで、いわば走能力は生き延びる上でもっとも重要な能力のひとつだ。もしこれがオスに比べてメスが著しく劣るとすると、メスばかりが食べられてしまうことになる。これは種の存続という意味

でひじょうに芳しくない状況であって、そういうことにはなっていない。むしろ、雌雄の走能力が極端に違うから、馬という動物が現在まで生き残っているのだともいえるだろう。

筋力という点でも、筋肉の質自体が雌雄で変わるわけではない。これは馬に限った話ではないのだが、筋肉を構成する筋繊維の質はオスもメスも変わらない。違うのは筋繊維の数と長さで、これによって筋力が決まるのだという。問題が筋繊維の長さや数であれば、やはり体格的にやや大きいオスが有利だが、体格自体の差があまり大きくない馬においては、それも大きな差ではないと考えられる。

「実際、セックス・アロウワンスで牝馬が負担を減らされる2^キという数字は、大きいものではありません。体重との比率で考えれば、人間でいえば200^g強に過ぎないのです。全体として雌雄には体格や体力に差があるのは確かだけれども、それは決定的に大きなものではない。個体差でひっくり返ることもある、という程度でしょう」